

## 旧松倉家住宅の 建てるもの & 歴史紹介

詳しくは  
ホームページへ



貸室利用もできます。  
スツツまでお気軽にお声がけください♪

### 〈歴史概要〉

松倉家は、江戸時代は油を商う商家、明治時代初期から大地主として栄えました。

### 〈修復整備工事〉

令和元年度から4年度までの期間で、建築当初の姿への復元を目指しつつ、活用を考慮しながら修復整備工事を行いました。

### 〈建築年代〉

主屋 明治39年(1906)  
米蔵 天保10年(1839)以前  
文庫蔵 慶応2年(1866)  
米蔵 明治末頃

#### ●上座敷・下座敷

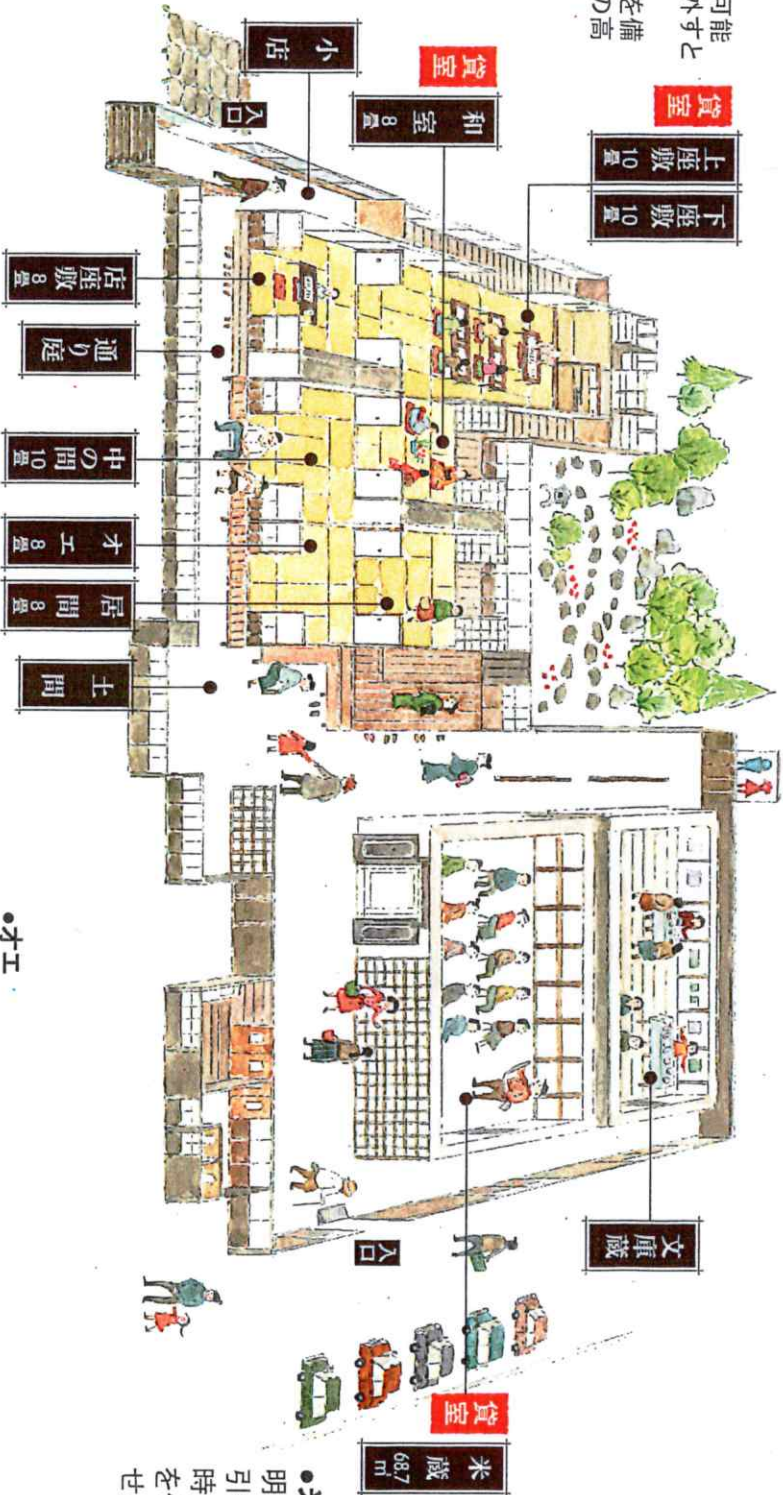
上座敷と下座敷は、取り外し可能な「置き敷居」と襖(ふすま)を外すと20畳もの大空間となります。書院・床の間・床脇(こわき)を備えており、家の中で最も格式の高い部屋として設えられました。

#### ●小店

江戸時代における秋田の町家(まちや)の小店は、仮店舗として商売を行い、また、降雪時の通路としての機能もあつた雪国特有の空間だったといえます。その後々に、家ごとに小店は区切られ、通路としての機能もなくなり、「小店」という名称と形式だけが残ったと考えられています。

#### ●店座敷

一般的に店座敷は、玄関を入れてすぐの場所にあり、高いを行う空間で、小店と店座敷の境は開け放つことができるようになっていたようです。本来の店座敷の形態からは変化していますが、室名と間取りは形式として残されています。



#### ●通り庭

玄関から土間、土蔵まで一気に移動できる屋内通路の役割を果たす空間です。上部は吹き抜けになっていて、外の明かりがしつかり差し込んでいます。

#### ●中の間

天井が高く、採光用の障子があるので、通り庭を通して明かりが入ってきます。広さは10畳と広く、神棚も祀られており、神聖な雰囲気があります。

#### ●オエ

オエは伝統的民家によく見られる部屋の名前です。秋田型の農家においてオエとは、仏壇・神棚がある接客・祭祀の空間であるといえます。秋田の町家においても旧松倉家住宅と同様に、オエという部屋がある町家があります。が、仏壇・神棚がない場合も多く、オエが形式的に間取りに残ったものだと考えられます。

#### ●台所

食事を作っていた場所で、板敷となっています。台所の前面にある土間には、煮炊きを行うかまどがあつたといわれています。

#### ●文庫蔵

一般的に文庫蔵は、書物や、年中行事・冠婚葬祭のお膳・食器類などの家財道具を収納する蔵といわれています。旧松倉家においても家財道具を保管していたとされます。

#### ●米蔵

明治の頃、松倉家は穀物取引を行っていました。その当時は米蔵にたくさん穀物を保管していたのかもしれない。

米蔵 687㎡